



～校訓～
「自主・清美・勤労」

大仙市立豊成中学校
学校報 NO.28
H31. 3.14(木)
文責 千葉雅一

<http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~ns-hoseicity/>

本当に、本当に、感動的で素晴らしい卒業式でした。翠翔学年の前途に幸多からんことを祈念しています

翠翔学年(第66期生) 卒業おめでとう!



答 辞

空から降り注ぐ太陽の光に柔らかな温かさが増し、日ごとに春の気配が色濃く感じられるようになってきました。私たち翠翔学年二十二名は、本日ここにいらつしやる皆様方のおかげで、無事、旅立ちの日を迎えることができました。

三年前、まだ体に馴染んでいない大きな制服を身にまとい、心の中を不安と緊張でいっぱいにして、豊成中学校に入學したあの日。それからまたたく間に時が過ぎ、今ではすっかりこの制服も小さく感じるようになってきました。

二年生になり、私たちも「先輩」になりました。先輩の見本となつて活動しなくてはいけないという責任感と、「先輩」として扱われる少しのくすくすたさを抱えて、四月、スタートを切つたことを覚えています。後期に入り、部活動、そして生徒会活動と三年生からバトンを引き継ぎました。十二月、待ちに待った大阪・京都への修学旅行。どんな旅にしたいのか。そのために自分たちができることは何か。実行委員を中心に、みんなで話し合いました。旅では目にするもの、耳にするものどれもが刺激的で、秋田との違いを実感しました。そしてそれと同じく、ふるさとの自然の豊かさや人の優しさをはじめ、秋田のよさ、今まで気付かなかつた仲間のよさにたくさん気付くことができました。

最高学年となつた三年生。専門委員長、キャプテン、部長など、一人一人がそれぞれの立場で周りを引っ張る場面が、ぐんと増えました。「どんな豊成中を自分たちは創つていくのか」。アイディアを出し合い、考えた生徒会テーマ「Challenge」、団結力と自主性を高めよう、「の」テーマのもと、スタラム集会で学年・学校の枠を越えて、積極的に協力し合う姿が見られました。小中連携あいさつ運

動では、自分から大きな声であいさつをする人の輪が次第に広がっていきました。こうしたたくさん活動を通して、団結力や自主性を少しずつ向上させることができました。とは思いますが、

中学校生活最後の豊中祭。全校が一丸となつて準備を進めました。本番が近づき、いよいよ準備も大詰めとなつたとき、台風の影響で延期になつた。先生から告げられました。予定が変わつたことによつて一時は動揺が走りましたが、三年生を中心に落ち着いて対応することができました。私はこのとき、校長先生が春からおつしやつていた「臨機応変な対応力」が各自に身に付いてきていると実感しました。そして、豊中祭当日。一日延期となつたにもかかわらず、たくさんの方々に来てくださいました。最後の全校合唱のあと、温かい笑顔で見守つてくださっている地域の方々を目にしたとき、私は「煌々、地域に光を」と個々の力で、「の」豊中祭テーマの通り「自分たちなりに、地域に光を届けられたのではないだろうか」とうれしくなりました。そして同時に、深い感動と大きな達成感を味わえました。自分たちにとつて、今までで最高の豊中祭にできた、と確信しています。

今年度、新たな取組として、中仙・豊成合同合唱フェスティバルが行われました。日々練習を積み重ねた成果を、全学年が堂々とドンパルのホール全体に響かせることができました。また、小中音楽祭で披露した全校合唱「ふるさと」はたくさんの方々から「よかつた」と声をかけていただけただけ一体感あふれる合唱でした。今まで磨き上げてきた「団結力」が輝いた場面であつたと思います。

この三年間、たくさんさんの困難を翠翔学年全員で力を合わせて乗り越えてきました。そんな私たちを今まで支え続けてくださった方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。

先生方、今まで本当にお世話になりました。先生方は私たちが困つたとき、辛いとき、いつも心の支えになつてくださいました。先生方が教えてくださったことを、これからも大切にしていきたいです。

在校生の皆さん、ずっと私たちを支えてくれてありがとうございます。これから皆さんが新しい豊成中を創つていく番です。どうか積極性や自主性のあふれる、楽しい学校を築いていってください。

そして今、ここにこうしていられるのは、何よりも家族のおかげです。本当にありがとうございます。いつも困らせたり心配をかけたりしてごめんなさい。「どんなときも自分たちの一番の味方であってくれる。そのうれしさを、心強さを、ありがたさを、苦しいときほど強く感じています。これからもまたお世話になります。どうかもう少し、私たちを支えてください。

出会うてからもう何年になるんだろう。いつもそばにいたことが当たり前だと思つてきたみんな。当たり前に当たり前でなくなる日がどうやって来よう。夢に向かい、それぞれの道を歩んでいかなければなりません。もし、道の途中で立ち止まりそうになつたときは、今日まで過ごした仲間との日々を思い出してください。その思いは、きつとみんなの進む道を照らす光になつてくれるはず。たとえ卒業しても、私たちはこれからもずっと変わらない「仲間」です。

これから支えてくださった全ての方々に心から感謝し、お別れの言葉といたします。

本当にありがとうございます。

平成三十一年三月九日
卒業生代表 小松 楓

『先輩、あとは私たちに任せてください!』 先輩の門出を祝おうと、在校生もがんばりました

送 辞

教室の窓から差し込む光、風の暖かさから、春の訪れを感じるようになりました。

今日、それぞれの夢に向かい、豊成中学校を巣立とうとする「翠翔学年」二十二名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。三年生のみなさんと共に過ごした学校生活を振り返ると、たくさんのことが思い出されます。

二〇一七年春、桜のつぼみがほころび始めた頃、私は豊成中学校の一員として、先輩方に暖かく迎えていただきました。慣れない生活に戸惑う私たちに、みなさんは優しく、そして親切に、たくさんのことを教えてくださいました。小学生の頃、学校の元気印のような存在だったみなさんが、わずか一年で一気に大人びて、とても驚いたことを鮮明に覚えています。

それから一年後、二〇一八年春、今ここに居るメンバーが揃い、翠翔学年のみなさんを先頭に豊成中学校が歩き始めました。生徒会テーマ「COOL ALLIANCE」の元、全校生徒五十一名が自主性を伸ばし、団結力を高めながら、それぞれの未来に向け、一步一步前進しようと決意を新たにしました。

記録的な猛暑となった夏。部活動をはじめサッカー、田沢湖駅伝では三年生を中心に、チーム一丸となつて闘う姿がありました。めざすものに向かい、ひたむきに取り組む姿は私たちに努力することの大切さを教えてくれました。

実りの秋。台風接近という予期せぬ出来事がありました。大成功で豊中祭を終えることができませんでした。全校生徒が減っている中でも例年に負けず劣らざる盛り上がりだったのは、三年生のみなさんが私たち下級生を引っ張っていつてくれたおかげだと思つています。

そして自分のめざすべき道を意識し始めた冬。みなさんの顔が一気に引き締まったように感じました。そんな緊張感のさなか、校内球技大会で見た楽しそうな顔。シュートが決まったときの力強いガッツポーズ。どんなことにも手を抜かず全力で、何事も楽しんで取り組む、みなさんがこれまでの学校生活で当たり前に行ってきたことの大切さを改めて気付かせてくれました。

今まさに、みなさんとの別れの時が近づいてきました。みなさんは、この学び舎から巣立ち、ひとりひとり別々の道を進んでいくことになりました。その道は決して平らなものではないでしょう。しかし、みなさんなら、どんな困難も乗り越えていけると、私たちは信じています。そしてここ豊成の地でいつまでも応援しています。

私たちが在校生は、みなさんから教えていただいたことを生かし、豊成中学校を今まで以上によりよいものにしていきます。

最後に「翠翔学年」のみなさんが、光輝く未来に大きく羽ばたいていくことを願い、お別れの言葉とさせていただきます。

平成三十一年三月九日

在校生代表 池田 典太



F M はなび 15日 AM 7時45分

第66期生の同窓会入会式 伝統と歴史のある豊成中学校同窓会員としての誇りをもって!

卒業式の前に、入会式を行いました。幹事の高橋君、ご臨席の22名、豊成中学校を認められたみなさんに、小松さん、高橋さん、留美さん、豊成中学校の力を誇りたいですね。



中仙中学校との合同授業 (1年)

臆することなく、堂々と、そして楽しくできました!

13日(水)、1年生が中仙中との合同授業(数学)を行いました。人数が少ないという点では、遠慮がちな1年生も、先生の発表を聞きながら、積極的に参加していました。中仙地域との連携を進めたいと考えています。

